様式３

学校番号 68

令和　４　年度　　学校評価書　　（計画段階・実施段階）

福岡県立伝習館高等学校長

自己評価

学校運営計画（４月）			評　価（総　合）
学校運営方針	**Ⅰ　学校教育目標** 伝習館教育の基本を踏まえ、長い歴史と伝統の中で形成されてきた気風高き伝習館の精神を具現化する教育活動により、意欲溢れるグローバル・グローカルリーダーを育成する。 **【伝習館教育の基本】**　３Ｔ「大切に育てます。丁寧に育てます。挑戦する心を育てます。」 **【伝習館の精神】**　（１）「立花の義」人を大切にし、決して裏切らない　（２）「三稜精神」知・徳・体の調和のとれた人であれ （３）校訓「明朗・誠実・剛健」と校是「志・鍛・挑・和を以て誇りとなす」		B
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標	
新型コロナウイルス感染症の影響による新しい生活習慣が２年目を迎えた。ＩＣＴ環境の整備や教職員の操作スキルの向上もあり、授業においては非常災害等においてもオンライン授業をはじめとするICT機器やソフトを活用し、安心して学べる指導体制を確立させることができた。また、昨年度も様々な学校行事が例年と異なる形態での実施となったが、行事の意義や目的を再確認しながら職員・生徒全員の力を結集して、状況に適応したスタイルに代えることで着実に成功に導いていくことができた。このことは、今後予測が困難な課題に直面しても様々な工夫をして実施していこうという意識を形成し、将来を生き抜く力の向上にも繋がったといえる。 今年度は新教育課程の実施初年度に当たる。昨年度以上に授業改善を推進しながら、授業等で主体的・対話的で深い学びを充実発展させるとともに、探究活動、英語イマージョン教育の重要性を全職員で共有し取り組みを推進していくことが課題である。あわせて、次年度に控えた創立２００周年の行事の成功に向けて、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校行事の在り方、行事を通した生徒の育成方法についての検討を速やかに行うことが課題となる。	１　確かな学力をつけ、進路目標を達成させる ２　逞しくしなやかな人間力をつける ３　教師力を向上させる	**1　確かな学力をつけ、進路目標を達成させる** （１）自律した生活を送り、家庭学習習慣を確立させる。 （２）知る喜び、学びを楽しむ能力を高め、主体的、能動的学習姿勢を育成する。 （３）日々の授業を通じて、考える力、予測する力、構想する力を育成する。 （４）英語イマージョン教育の発展、日本語四技能推進強化により、思考を深め、表現力、コミュニケーション力を高める。 （５）３年間を見通したキャリア教育により自らの人生をデザインし、高い志を育む。 **2　逞しくしなやかな人間力をつける** （１）規範意識に富み、笑顔の挨拶を習慣化させる。 （２）日々文武両道に励み心と身体を鍛える。 （３）他者への思いやりを持った言動をとり、安心・安全な学校生活を送らせる。 （４）学校行事を通じて社会情動的スキルを育成する。 （５）伝習館で学ぶ自覚と誇りを持った愛校心を育む。 **3　教師力を向上させる** （１）授業力を向上させる工夫を継続する。 （２）校内外の研修により専門性を磨き、ICTとチョークのハイブリッドを継続する。 （３）豊富な内容を持った的確な進路指導により生徒の可能性を最大限伸ばす。 （４）「伝不習乎」と自らに問い、教師自らが学び続ける意欲と情熱を持つ。 （５）生徒の模範となる行動をとり、誠実で信頼される教師であり続ける。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	教務課	改訂された学習指導要領に基づく新教育課程を円滑に実施する。	適切な観点別評価が実施できるような仕組みと手法を確立させる。	A	A	A	①授業の改善と基礎基本の徹底。 ②総合的な探究の時間（MT：学びトレーニング、未知へのトライアル、未来タクティクス）の実施計画の改善を進める。 ③校務支援システムの活用方法について検討する。
			大学入試改革の動向をつかみ、随時教育課程の見直しを行う。	A			
			総合的な探究の時間の実施計画と見直しを進め、生徒自身で課題を設定して解決策を考えるような時間にする。	A			
		ICT機器やwebサービスを活用して授業改善を進め、生徒が主体的に学ぶ授業スタイルを確立する。	電子黒板やChromebookの効果的な使用法についての説明会や研修会等を企画・実施する。	A	A		
			ICT機器の維持管理や消耗品の補充に気を配り、いつでもどこでも使える体制を整える。	B			
			学力向上学習会等を通じて、学習でつまづきを感じている生徒への支援を確実に行う。	A			
		統合型校務支援システムの円滑な運用を図り、校務の効率化及び業務負担の軽減につなげる。	校務支援システムを用いた観点別評価が円滑に導入できるように研修会を企画・実施する。	A	B		
			校務支援システムの保守管理ができる担当者を複数名育成する。	B			
			校務用サーバー内のデータの整理を、庶務課と連携して実行する。	B			
	庶務課	統合型校務支援システムの適用や学校行事のオンライン配信も含めて、コンピュータを十分に活用した運用を行う。	行事のオンラインでの運用マニュアルを作成することで、知識の共有を図る。	A	A	A	①学校行事の形態を整理する。 ②コロナの状況下における図書館利用のあり方を工夫する。
			統合型校務支援システムの運用、各種情報機器の保守・点検、他分掌との連絡調整を行う。	B			
			行事での責任者会議、係会議を活用し、円滑な運営を図る。	A			
		読書センター、学習センター、情報センターとしての図書館機能の充実を図り、コロナ禍での生徒利用を考える。	「朝の読書」の推進、「図書館便り・新着図書紹介」などの発行を行い、生徒の読書意欲を喚起する。	A	A		
			定期的に選書を行うことで、蔵書の充実を図り本校にふさわしい書籍を購入する。	A			
			コロナ禍の状況に合わせた館内展示を行い、常に生徒の学習支援を行える状況を整える。	A			
		コロナ禍での父母教師会活動の内容を、保護者とともに再考する。	コロナ禍でのＰＴＡ行事を役員、職員で検討し、円滑な行事の運営を目指す。	B	B		
			職員にＰＴＡ行事への協力体制をより構築する。	B			
			マメール（学校緊急メール）を、PTA行事の連絡に有効に活用し、迅速な対応を図る。	A			

学校関係者評価

評　価（総　合）	
B	自己評価は A　適切である B　概ね適切である C　やや不適切である D　不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・ＩＣＴ機器を活用した授業やオンライン学習については、これまでの実績をもとに本年度も積極的に推進されている ・全生徒にChromebookが配備されたため、授業改善や生徒が主体的な学習に取り組むための手段としての活用に向けた具体的方策を考えていく必要がある。
A	・統合型校務支援システムの円滑な運用による校務の効率化は、教員の働き方改革につながり、ひいては生徒理解・生徒指導の充実につながる。積極的に推進を行っていただきたい。 ・ポストコロナに向けたＰＴＡ活動の在り方等、保護者と学校との連携を密にしながら検討していただきたい。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部	広報・中学募集課	地域、中学生やその保護者などに本校の特色を理解してもらえるよう、学校案内やHP、SNSを通して広報活動を活発化する。	本校らしいデザインの工夫や本校ならではの内容を掲載し、学校案内パンフレットをより充実したものとする。	B	B	B	①各分掌・各部活動にＨＰ更新の頻度を上げてもらうように呼びかけ、HPの内容を充実させ、さらなる活用をはかる。②オープンスクールのさらなる内容の充実と、本校の強みに特化して他校との差別化を行う。③本校生徒の素晴らしさや、生き生きした様子が伝わるような広報物、オープンスクールによって本校の特徴をＰＲする。	B	・ＨＰのリニューアルがなされたことで、より効果的に学校からの情報発信が可能になったと考える。更新頻度や発信内容のさらなる工夫と改善が望まれる。 ・オープンスクールや学校説明会の内容充実が、生徒募集に大きく影響を与えるため、日程や内容等、中学校との連携を密に推進していただきたい。
			HPをリニューアルし、より本校の良さが伝わる内容に充実させ、PRにつなげる。	A					
			分掌・学年・部活動ごとのＨＰ更新担当者に積極的にＨＰやSNSの情報発信してもらう。	B					
		オープンスクールや各種説明会で、本校の教育活動への理解を深めてもらえるような手段や方法を考案・実施する。	来校形式のオープンスクールに加えミニオープンスクール（オンライン）を開催し、参加者数のべ５５０名を達成する。	B	B				
			オープンスクール・ミニオープンスクールにおいて本校の魅力が実際によりよく伝わるよう、本校生・卒業生の協力の下に中学生・保護者対象の行事を行う。	A					
			中学生の志望校選択の時期に合わせた内容のオープンスクール・ミニオープンスクールを実施する。	B					
		中学校や塾との信頼関係を深めるための定期的な中学校訪問や塾訪問を計画し、全職員への情報の共有化を図る。	時期に応じた内容の定期的訪問を提案し、中学校や塾との信頼関係を深める。	B	B				
			中学校・塾対象説明会を開催し、本校の特色を伝えると同時に本校への要望や評価を探り教育活動や生徒募集に活かす。	C					
			他校の広報活動や志望者動向についての情報を収集し、本校の職員への情報共有を行う。	B					
	研修課	職員の研修意欲の高揚を図り、資質の向上に繋がる研修を企画・支援する。	職員のニーズに応じた７回の職員研修会を企画・実施して実践的な指導力と資質の向上につなげる。	A	B	A	①校務分掌や学年と連携しながら、外部講師を招いて、有意義な校内職員研修会を実施する。②新たな教育に対応できる教育実践の支援を行う。③基本研修、教育実習、キャリアアップ講座や予備校研修等の校外研修を支援する。	A	・一人一台のChromebook活用による授業改善や生徒が主体的な学習に取り組む方策の検討と合わせ、引き続き教える側のスキル向上につながる効果的な研修を計画、実施していただきたい。
			教員のＩＣＴ活用指導力向上、英語イマージョン授業の推進のための校内研修を行う。	B					
			キャリアアップ講座、予備校研修、各種研究会などの校外研修会へ複数の教員が参加できるように調整するとともに、研修内容を全職員に還元する。	B					
		職員の人権に関する意識を高め、人権同和教育の推進を図る。	学年ごとに生徒の実態把握に努め、それに応じた人権・同和教育指導案の検討を行う。	A	A				
			生徒、保護者、教員の人権意識の向上を図るため、父母教師会と連携して人権講演会を実施する。	A					
			学校不適応や心理的葛藤を抱えた生徒への支援態勢を整えるための校内職員研修を複数回実施する。	A					
		若年教員研修、中堅教諭等資質向上研修、エキスパート教員研修を支援するとともに、教育実習の運営を確実に行う。	若年研（1年目）・(2年目)、中堅研、エキスパート研の基本研修の企画および報告文書等の作成を確実に行う。	A	A				
			若年教員研修の企画・運営を行い、若年教員の指導力向上を目指す。	A					
			教育実習に関する連絡や調整を行うとともに、報告書等の作成を確実に行う。	A					
進路指導部	進路指導課	高い志に向き合い、挑戦する心を育成する。	よのなか講座を通して、職業観を育成し、高い目標を目指す。	B	B	B	①生徒に必要な基礎的学力を定着させるため進路支援の充実を図る。 ②大学入学共通テストに対応する学力および個別試験に対応する記述力の育成を図る。 ③キャリア教育の充実を図る。	B	・今後の高大接続改革（大学入試改革）の進展に伴う情報と対応について、生徒・保護者への情報発信していただくとともに、具体的な方策を検討し実施していただきたい。 ・３年間を通じたキャリア教育を通して育てたい姿を共通理解した取組を期待したい。
			進路講演会や大学出張講座を通して、国公立大学合格率向上を目指す。	B					
			外部模試及び外部検定に挑戦させ、更なる学力の伸長を図る。	A					
		基礎学力を定着させ、思考力を伸ばし、第一志望進路の実現を目指す。	育成する力に応じた講座制課外・土曜セミナーを実施し、大学合格率１００%を目指す。	B	B				
			学びの基礎診断で自己適性を知り、早期に自己進路を具体化させる。	B					
			ハイスクールオンラインから情報収集および情報共有を行い、進路指導に活用する。	B					
		取り組みや成果を地域・保護者へ発信する。	進路の手引きや進路ナビを発行し、生徒、保護者のニーズに応える。	B	B				
			進路情報提供や入試問題など進路資料室の充実を図り、教師や生徒に有効活用する。	B					
			地域、保護者、生徒の期待に応じた進路情報をHPを通じて発信する。	B					
生徒指導部	生徒指導課	伝習館スタイル（規律と品位と笑顔の挨拶）の確立と規範意識の維持向上を図る。	挨拶習慣・マナー教育を充実させ、笑顔の挨拶と端正な制服の着こなしを徹底する。	B	A	B	生徒主体の伝習館スタイルの確立学校行事（大運動会、三稜祭、クラスマッチ等）の内容・運営方法の見直し伝習館生徒の規範意識の向上	B	・感染防止対策と行事の効果的な運営の両立に苦心されたと考える。これまでの知見をもとに、生徒の自主性の育成や挑戦する力の育成に取り組んでいただきたい。 ・「伝習館スタイル」を生徒自らが語り、実践できることが最大のＰＲになるため、中学校や地域への情報発信と連携を密にしていただきたい。
			交通安全教育や登下校指導を通して、交通安全への意識向上の徹底を図る。	A					
			面談期間を通じて、生徒のサインを早期に発見し、いじめや問題行動の未然防止に努める。	A					
		生徒主体の大運動会、三稜祭による社会情動的スキルの育成を図る。	生徒会や実行委員会を中心とした定例会を実施し、生徒中心の企画運営とする。	B	B				
			大運動会については、「情熱・協働・自律」をモットーに取り組ませる。	A					
			三稜祭において、校内ステージ発表・校内展示発表、一般公開の充実・発展を目指す。	B					
		生徒会を中心とした各種活動の活性化を図る。	生徒会を中心にアゴラ集会を活性化させ、主体的生徒の育成を図る。	A	B				
			各種委員会の活動内容の明確化と取組の発信を行う。	B					
			部活動の活性化と地域の活性化に繋がるボランティア活動への積極的参加を促す。	B					
生徒指導部	保健課	心身の健康の保持増進を図り、健康管理・健康教育を充実する。	健康診断・身体測定の結果をもとに助言を行い、生徒の自己管理能力を育成する。	A	A	A	①心身の健康保持・増進に積極的に取り組む。 ②清掃活動の充実を図ると共に、奉仕活動等を含めた活動を充実させる。 ③健康的で、逞しい生徒を育成する。	A	・教育相談体制におけるＳＣやＳＳＷなど外部機関との連携を積極的に推進していただきたい。 ・特別な配慮を必要とする制に対する支援体制の充実を推進していただきたい。
			保健だよりや健康に関する掲示物等を充実させ、適切な情報を発信する。	A					
			体育的行事・学年行事の前に校医による健康相談等を実施し、事故防止に努める。	A					
		清掃活動や奉仕活動を通して、生徒の主体的な環境美化に対する意識の高揚を図る。	日々の清掃活動を徹底しながら学習環境を「精美」する。	B	B				
			年２回の美化週間の内容を見直し、清掃状況に関する評価を伝え、校内美化を充実する。	B					
			地域清掃ボランティア活動を年２回実施し、生徒の主体的な美化活動を推進する。	B					
		健康的で、生きる力を持った生徒を育成する。	日々の健康観察や保健室利用等の連絡を密に行い、生徒の動向の変化を早期に発見する。	A	A				
			学年・教育相談委員会・スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒支援に努める。	A					
			健康教育推進事業等の実施を通して、個々に対するきめ細かな支援に努める。	B					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
第1学年	基本的生活習慣を確立する。	個人面談や生活の記録を活用し、生活のリズムを整え、高校生活適応の支援をする。	B	A	B	①学校の中核となるリーダーとフォロワーの育成 ②進路意識の高揚 ②主体的な学習スタイルの確立	B	・高校生活へのスムーズな適応を図るためにも、中学校との連携やＳＣ、ＳＳＷ等との連携を図り、組織的な対応の推進をお願いしたい。 ・主体的に学習する姿勢を育成するための３年間を見通した具体的方策の確立を進めていただきたい。
		学年団で情報を共有し、教育相談委員会と連携しながら、心身ともに健康に過ごせるように指導する。	A					
		三者面談などで保護者との連携を密にし、生徒の生活状況を把握し、指導に反映させる。	A					
	主体的な生徒を育成する。	日常生活における生徒との関わりの中で、挨拶の励行、時間の厳守、掃除の徹底を図る。	B	B				
		学校行事や学年行事での役割を通して、人間性の成長を図る。	A					
		総合的な探究の時間や授業・行事を通して、自らの考えを表現する力を育成をする。	B					
	基礎学力を定着させ、進路意識を高める。	予習、授業、復習のサイクルを習慣づけ、効率的な学習方法を身に着ける。	B	B				
		考査前の学力向上学習会や個別指導により、基礎基本の理解を図る。	B					
		進路学習を通して、自分の興味・関心を知り、将来の目標が持てるように支援する。	A					
第2学年	基本的生活習慣を確立させる。	生活の記録及び面談による生徒の状況把握と適切な指導を行う。	B	B	B	①健やかな生活を自分で整える力を養う ②進路実現を通しての人間的成長を促す ③伝習館生としての自覚を持った生徒の育成をする	B	・コロナ禍の中ではあったが、修学旅行や三稜祭など、これまでの知見をもとに比較的従来のスタイルに近い形で実施できている。その経験を通して、今後のリーダーシップの育成や危機管理能力の向上に努めていただきたい。また、次の最上級学年としての在り方や生き方を考える取組を積極的に推進していただきたい。
		日々の声掛けやＨＲを通して、挨拶の励行、時間の厳守、端正な身なりの徹底を行う。	B					
		長期欠席等に関しては、情報を共有し、教育相談委員会と連携を図り、適切な指導を行う。	B					
	伝習館生としての自覚を持ち、主体性を育む。	学校行事や学年行事を主体的に企画し、積極的に参画する。	A	A				
		学校行事や学年行事を活用したリーダーシップの育成を行う。	A					
		生徒会活動や部活動に積極的に取り組ませ、主体性、社会性や忍耐力を育む。	B					
	学力の向上を図るとともに、進路意識を高揚させる。	各教科で考査や模試の分析を行い、学力向上の手立てを考え、実行する。	B	B				
		オープンキャンパスや大学体験講座で情報を収集し、高い進路目標を設定させる。	B					
		課題研究を通して、課題を解決する方策を学び、よりよい社会を創造するための結論を導き、研究の楽しさを知る。	B					
第3学年	確立した生活習慣を継続する。	手帳と個人面談を活用し、生活の乱れの防止・学習状況の把握を行う。	A	A	B	①基本的生活習慣を確立させる。 ②基礎学力の定着を図る。 ③進路意識を高揚させる。	B	・最上級学年として、生徒の進路目標の確立とその実現に向けて、最後まで生徒に寄り添った丁寧な指導をお願いしたい。 ・学校行事等におけるリーダーシップの育成とともに、困難に挑戦する姿勢をはぐくみ、進路実現の取組につなげていただきたい。
		あいさつの励行、身だしなみ、時間の管理ができ、下級生の模範となるようにする。	B					
		部活動や学校行事と学習の両立を支援し、リーダーとして必要な資質を学び、主体性や行動力を育成する。	A					
	進路実現に向けて、学力の伸長を図る。	大学入学共通テストへ的確に対応した授業を行い、自ら探究する生徒を育成する。	B	B				
		早朝や放課後の学習環境を整え、主体的な学習を推進する。	B					
		定期考査を活用し基礎基本の徹底を意識させ、弱点の克服を図る。	A					
	進路実現に向けた自己研鑽を通して、人間的に成長させる。	具体的で高い目標を設定させ、その実現に向け学年全体で支援する。	B	B				
		面談、進路講演会や合宿勉強会などを活用し、生徒の学習意欲の向上に努める。	A					
		進路指導に関する情報を共有し、データに基づいた効果的な指導を行う。	B					
未来構想部	本校のスクールミッション、スクールポリシーの実現のための提言を行う。	定期的にミーティングを行い、本校の課題を洗い出し、職員間で共有する。	A	B	B	①未来構想部のミッションと具体的な行動計画を明確にする。②広報・中学募集課・１学年とのさらなる連携を行う。③本校のあるべき姿について職員間でのベクトルをそろえる役割を果たす	B	・分掌横断的な位置づけを活かし、重点目標や重点課題の共有化に向けた積極的な取組を推進していただきたい。 ・創立２００周年を契機とした、次の１００年に向けた新たなグランドデザインの構築に向けて、戦略的に取り組んでいただきたい。
		各分掌の主幹・主任と連携し、スクールミッション、スクールポリシーの実効性を高める。	B					
		「三稜プロジェクト」のチラシを広報用にさらに刷新する。	C					
	教務部広報課をバックアップし、効果的な広報戦略を提案する。	私学や他の公立高校の広報戦略について研究する。	B	B				
		入学生の意識調査を行い、中学生への生徒募集の参考とする。	C					
		広報課による中学校、塾訪問の集約を行い、広報戦略について提案を行う。	B					
	二百周年記念事業を機に在校生に伝習生としてのアイデンティティを持たせる。	生徒に本校の歴史と伝統、または目指す生徒像について語れるよう職員を支援する。	C	B				
		二百周年を機とした生徒主体のイメージアップ事業について検討する。	A					
		同窓会記念誌の本校の歴史の部分の縮刷版（またはパンフレット）を作成する。	B					

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策（項目を設定して、個条書きで記入すること。）

〇コロナ禍後を見据え、これまでの教育活動を整理し、体系化することで本校の特色ある教育活動の創造につなげることで、魅力ある学校づくりにつなげる。

〇上記の「本校の特色(魅力)」について、全職員で共通理解を図り、広報・生徒募集活動の推進を図り、もって広報・生徒募集の推進につなげる。

〇ＩＣＴ機器を活用した、個別最適な学びの推進および主体的に学習に取り組む態度の育成について、より具体的な方策と推進のための協働体制を構築する

標記項目以外のものに関する意見